

今朝の聖書から

「やすかれ」とイエス様は言われました(24:36)。「やすかれ」という呼びかけは、イエス様の気持ちをよく示している言葉です。「やすかれ」という呼びかけが、今も私たちに与えられていることを、まず忘れないようにしましょう(※:この言葉の前後に括弧がありますが、これは“ほぼ間違いなく聖書の言葉だが、中にはこの言葉が含まれていないものもある”という意味です。24:40も、そう扱われています)。37節の“彼らは恐れ驚いて、霊を見ているのだと思った”と“やすかれ”という言葉は、正反対の言葉と言ってよいでしょう。“どこかの家にはいったら、まず「平安がこの家にあるように」と言いなさい”というのは、ルカ10:5で、弟子達に与えられた指示でした。今朝の聖書箇所は“エマオへの道の出来事”に続く出来事で、38節の“おじ惑っている状態”、“疑いを起す状態”とも“平安”という言葉は合い入れない言葉です。時間の流れははっきりしませんが、エマオでの出来事の報告を聞いても、他の人々は信じなかったのだ、と読み進めて間違いはないでしょう。弟子達は霊を、あるいは幻覚を見ているのかと思いました。ここでも“復活の予言”は忘れられています。霊的な存在は食事をしないと、皆が信じていた時代ですから、確かに復活と栄光のイエス様であることを、“イエスはそれを取って、みんなの前で食べられた(24:43)”ということを通して証明されました。確かに“私たちが知っている通り”肉体をとってよみがえられたイエス様に間違いなかったのです。この光景は、今の私たちの世界と実によく似ています。“イエス様”それは誰でもが知っている言葉でしょう。どんな出来事があったかもだいたい知っています。しかし、38節にあるように“なぜおじ惑っているのか。どうして心に疑いを起すのか”というのが、私たちの姿であり、私たちが“キリストを信じてほしい”と思っている人々の姿なのです。“石橋をたたいて渡る”という言葉がありますが、たたいている間は平安はありません。“私は道である”と仰る方を信じたとき、疑い求める思いが大きかったなら大きかったほど、平安もゆるぎないものになります。信仰の実が“平安”というかたちで現れることを、復活し私たちの前に現れた、イエス様から学びましょう。

週報

2007年 4月 22日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。
使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸